

講演会報告

地方公務員として働く —先輩方による講演会—

柴田 直子

去る6月30日、法学会及び「ユニバーサル社会とジェンダーの会」のご支援をいただき、卒業生による講演会を実施しました。お話を下さったのは、法学部を卒業し神奈川県庁に入られた阿部寿美恵さんと法学研究科を卒業し横浜市役所に入られた中川洋子さんのお二人です。また、本学の桐村晋次教授には、コメンテーターを務めていただくとともに、「キャリア形成」の視点からお話をいただきました。

今回の講演会を企画した目的は4つありました。そのうちの1つは、もちろん、「地方自治論」の授業として、「自治体で働く」という項目を実際に地方公務員の方にお話ししていただきたかったということです。2つ目は、法学部の学生には入学時は地方公務員を志望していながら、途中で受験を断念している学生が多いと聞くため、3年生の受講生が多い「地方自治論」の授業を通じて、応援メッセージを送りたかったことです。「百聞は一見に…」ではないですが、自分たちの先輩方が自治体で活躍している姿を見ることによって、大きな力と自信を得るのではないかと。それから、地方自治体で働いていらっしゃる神大卒業生の方と交流を持ちたい、というかなり前からの希望がありました。実は、以前、調査のため所属の研究会で、ある自治体を訪問したことがあったのですが、その際、分かりやすくご説明して下さった職員の方が、実は神奈川大学の卒業生の方だったということがありました。全国各地の自治体で働いていらっしゃる神大卒の方々に思いを馳せる、今日この頃です。4つ目については、「ユニバーサル社会とジェンダーの会」のニュースレターでも書いたとおりです。

さて今回は、「キャリア形成」という視点から、公務員としての仕事についてお話をいただきました。阿部さんからは、地方公務員として「市民に近い市で働くか」「より広域の行政に携わるか」、そ



して「スペシャリスト」的な知識を蓄積するか、「ジェネラリスト」的に幅の広い仕事に挑戦するか、を自分で選択しながら進んで行けること、中川さんからは、地方公務員になるとしても、いろいろな道筋があるということ、そしてアグレッシブにキャリアを追求する働き方を教えていただきました。また、具体的な事例を挙げて、コミュニケーション能力の重要性を説明して下さった桐村先生のお話は、まさに「目からうろこ」で、学生さんにはすぐにもでも実践してみたいと思います。

最後の質疑応答の時間、「今、公務員試験のために勉強している法律は、公務員になったときに役に立つのですか？」という質問には、阿部さんから間髪いれず、「役に立ちます！」と答えていただきました。また、中川さんからは、「公務員として仕事をしていくには、もっと法律の勉強が必要だということで、神大の大学院に来た」という話もしていただきました。

本講演会においては、ご体験やそれに裏打ちされた貴重なアドバイスがたくさん詰められていました。具体的な業務の内容にも関心がありましたが、そこまでお聞きする時間がなかったので、いつか、ゆっくりお聞きする機会があれば、と思っています。

最後になりましたが、お二人の今後のますますのご活躍をお祈りいたしております。（法学部准教授）